

編集後記

クリニカルパスは、診療の工程を管理・標準化し、診療の質の向上、診療計画の可視化、業務の効率化などを目指す診療マネジメントの一手法である。クリニカルパスは、医療安全やリスクマネジメント、医療経済、多職種協働・チーム医療など多くの面において有用性があることから、小児科領域においても導入が進み始めている。本特集では、クリニカルパスが小児患者を対象としたときに、どのように導入され、どのように実践・応用されているか、小児科サブスペシャルティ領域のうち循環器、アレルギー、リウマチ・膠原病、内分泌・代謝、腎・泌尿器、呼吸器、新生児の各領域のエキスパートに、また外科系領域から小児外科と耳鼻咽喉科のエキスパートに解説していただいた。

小児科領域におけるクリニカルパスは実際、予定された検査入院や、治療導入や教育を目的とする入院のように、検査や治療が標準化され、計画的に行われるような疾患・病態に対して選択的に導入されていることが多いようである。クリニカルパスの作成においては、平日の日中用と休日・夜間用を別にするなど各医療機関における運用ルールへの適合、電子カルテシステムとの整合、多職種間での情報共有と調整、定期的な評価と修正を図り、各医療機関

の実情に合わせた調整・工夫がなされている。各専門領域のエキスパートは、クリニカルパス作成過程における苦労や知恵についても言及されているので、読者をご自分の施設でクリニカルパスを作成する際の参考となるだろう。

綜説では、麻酔薬が小児の脳神経細胞に長期的な毒性をもたらす可能性があるという仮説に対して、現在までに集まった賛否両論の研究結果について解説されている。また、小児の死因究明における死亡時画像診断の意義と実際についての解説もある。こちらについては養育者の同意取得、画像診断の費用負担、法制度の整備が課題といえよう。診療では、慢性疾患をもつ小児のうつが話題として取り上げられている。慢性疾患の治療においては身体面、メンタル面のケアと同時に家族全体へのサポートが重要であることがあらためて強調されている。社会小児科学では、先天代謝異常症や難治性下痢症などの治療に用いられる特殊ミルクの供給が、乳業メーカーの負担において辛うじて維持されている現状が解説されている。いずれも専門外のかたにとっても興味深い内容であり、読者のみなさまにはぜひご一読いただきたいと思う。

(高橋 孝雄)

編集：伊藤保彦・河野陽一・中西敏雄・岡部信彦・高橋孝雄（ABC 順）

小児科

第 58 巻 第 11 号 10 月号

2017 年 10 月 1 日発行（毎月 1 回 1 日発行）

定価（本体 2,600 円＋税）

年間購読料金

定価（本体 41,000 円＋税）

〔年間 13 冊（増刊号、増大号を含む）の誌代〕

〔年間予約購読者に限り送料無料〕

※別冊は年間購読に含まれません※

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14

Tel 03(3811)7165〔雑誌部直通〕

Tel 03(3811)7184〔営業部直通〕

FAX 03(3813)0288

<http://www.kanehara-shuppan.co.jp>

振替口座 00130-1-191269

印刷所 三報社印刷株式会社 Tel 03(3637)0005

広告申込先 福田商店 Tel 06(6941)5600

・本誌に記載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権（送信可能化権を含む）は金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY** <（社）出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、（社）出版者著作権管理機構（電話 03-3513-6969、FAX 03-3513-6979、e-mail:info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。